

特集 とよひら再発見！ 東月寒を訪ねて



豊平区の東部、住宅街の中に、多くの観光名所や豊かな自然が点在している東月寒地区。この地区では、より良いまちづくりを目指してさまざまな活動を行っています。
今回の特集では、東月寒地区の歴史や、地域で行われている取り組みを紹介します。



▲夏には見事な花が一面に広がる八紘学園の花菖蒲園

一年を通していろいろな活動をしています



春

花いっぱい大作戦

夏



ふれあい夏まつり

秋



農作業体験(稲刈り)

冬



イグルー作り体験



自然と調和した
閑静な住宅街

かつては「八紘」と呼ばれ、その後「東月寒」と呼ばれるようになったこの地域の歴史は、一八七一年（明治四）年に、岩手県からの開拓移民が入植してきたことから始まります。
月寒は、軍隊や行政、商業を中心に栄えましたが、その東側に位置するこの地域は、早くから農村地帯として発展してきました。
今では閑静な住宅街に様変わりし、農村としての面影は八紘学園の農場を残すのみですが、羊ヶ丘展望台や広大な花菖蒲園など豊かな自然が点在するのも特徴。自然と調和した優れた環境の住宅地として発展を続けています。



住民が自ら取り組む
まちづくり

東月寒地区では、町内会連合会、福祉のまち推進センター、東月寒まちづくり協議会「童夢」の三者が互いに協力し、地域住民が自ら積極的にまちづくりに取り組んでいます。
また、近年では地域住民の力だけでは解決できないことも少なくありません。そこで、地域の企業とも連携し、一体となってさまざまな活動をしています。
その内容は、子どもから高齢者まで、年齢を問わず気軽に参加できるものばかり。活動を通じて深まる住民同士の結束を力に、東月寒地区はより住みよいまちを目指しています。

町内会連合会の旗ができました！

1981(昭和56)年に設立された東月寒地区町内会連合会。今年4月に創立30周年を迎えたことを記念し、町連旗を作成しました。

そのデザインは、旗の中央にこの地区ゆかりの花である「菖蒲」の開花をイメージしたもので、東月寒の明るい未来を象徴しています。

